

プリキユア 平成ジェネ  
レーションズ FOREVER

菜轟@前サルン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

”全プリキュアを消し、自分達の世界を再建する”と言いながら突如、野乃はな達の前に現れたスーパータイムジャツカーのキース。

鬘や野乃はな達はキースの計画を阻止し、プリキュアの世界を守る事が出来るのだろうか…？

※タイトルが似ていますが、仮面ライダー平成ジェネレーションズforeverの本編のネタバレになるような内容は書いてないのでご安心を。

※2020年は平成ではありませんがこの小説に登場するプリキュアの多くが平成のプリキュアなので平成ジェネレーションズにしました。

※2 HUGっと！プリキュアの次作のプリキュアは出ません。

← 最新話

<http://syosetu.org/novel/177633/6.htm>

1

←プリキュア新伝説 導きの少女

<http://syosetu.org/novel/164524/>

←プリキュア新伝説 導きの少女 最新話

<http://syosetu.org/novel/164524/56.htm>

m  
l

# 目次

第1話	異変の始まり2018	1
第2話	壊れゆく世界2020	5
第3話	切れてしまった3人の想い20	20
第4話	”大好き”を無くした戦士20	20
第5話	Memories(メモリーズ)	13
第6話	ARMOR TIME(アーマータイム)2020	18
マー	タイム)2020	25

## 第1話 異変の始まり2018

2018年…はぐくみ市

「はな、いつまでも寝てると遅刻しますよ!」

「うわあ!?もうこんな時間!!早く支度しなきゃ〜!」

玄関前には野乃はなとルール・アムールを待つ薬師寺さあやと輝木ほまれ、そして野乃ことりを待つ愛崎えみるがいた。寝坊した野乃はなは急いでパジャマから制服に着替え、食パンを一切れ啜えてから妹の野乃ことりとルールと共に皆が待つ玄関前に行く。

「はなが寝坊なんて珍しい…」

「何かが起こりそうな予感がする」

薬師寺さあやと輝木ほまれは普段、寝坊しない野乃はなが珍しく寝坊したので今日は何かが起こるんじゃないか?と冗談を言っていた。野乃はな達が学校へ向かっている途中、目の前に黒いワープホールのものが見れ、ワープホールの中から黒基調の服装をした金髪の青年が現れた。

「おーこれはこれは…探す手間が省けたようだ」

「あなたは？」

「僕はスーパータイムジャツカーのキース。全プリキュアを消して自分達の世界を再建する為にここに来た」

スーパータイムジャツカーのキースはそう言いながら指を鳴らす。すると、指の音と共に上空から数えきれないほどの敵が現れた。

「オシマイダー!？」

「いえ、オシマイダーだけではありません！他のプリキュア達の敵もいます！」

キースは歴代のプリキュア達の敵全てを2018年に召喚する。5人は野乃ことりを安全な場所に避難させた後、プリハートを取り出して変身する。

「ミライクリスタル！ハートキラツと!!」

「は〜ぎゅ〜〜!ぎゅ〜!」

プリハートに各ミライクリスタルをセットした後、プリハートをハート型にし、プリハートの中央の下辺りにあるハート型のボタンを押してハートを身体の周りにばら撒き、プリキュアの服装を身に纏う。

「輝くミライを抱きしめて!!」

「みんなを応援！元気のプリキュア！キュアエール！」

「みんなを癒す！知恵のプリキュア！キュアアンジュ！」

「みんな輝け！力のプリキュア！キュアエトワール！」

「みんな大好き！愛のプリキュア！」

「キュアマシエリ！」

「キュアアムール！」

「HUGっと！プリキュア！」

アンジュとエトワールとマシエリとアムールの4人は怪物に向かっていく。数が多い為、町の建造物を守るので精一杯だった。

4人が町の建造物を守っている間、エールはキースに攻撃を仕掛けるがキースはエールの攻撃を簡単に避けていた。そしてエールの背後に回り込み、強烈な殴りを右脇腹辺りにかます。エールは数十メートル先の建造物の壁にぶつかり、変身が解ける。変身が解けた野乃はなの右脇腹辺りの服が破れており、そこにはキースから受けた攻撃の跡である黒い痣が残っていた。

野乃はなを倒したキースは他の4人の元へ向かい、それぞれに強烈な一撃をくらわせて変身解除に追い込んだ。

「これでHUGっと！プリキュアは消える…」

キースはそう言いながら野乃はな以外の倒れている4人の元に行き、4人の前に手をかざす。すると、4人は身体が光の粒子の様になり、消えていった。4人を消したキース

スは野乃はなの元へ向かう。

「コイツは利用価値がありそうだなあ…」

キースはそう言いながら、野乃はなに特殊な光線を浴びせて野乃はなを洗脳する。

「2020年にいる魔王と仲間達を消せば計画は成功する…!」

キースはそう言い、洗脳した野乃はなを連れて黄醒鰐がいる2020年に向かうのだった…



## 第2話 壊れゆく世界2020

2020年… 時ノ眼町

黄醒鬩が朝ごはんを食べながらテレビを見てみると、緊急ニュースが入ってきた。この時ノ眼町の上空に多くの怪物が現れたようだ。

「歴代プリキュア達の敵がいるだ?!」

「歴代の敵達は歴代のプリキュア達に倒されたはずでは…?」

「とにかく、敵のいる場所に向かおう!」

ルークは歴代プリキュア達の敵がいると鬩に言う。鬩は歴代プリキュア達によって倒された敵が何故、現代にいるのか気がなったが今はそんな事を考えている場合ではないと思ひ、ルークと他の仲間達と共に敵のいる場所へ向かった。

「これは…」

付近の建物が崩壊し、瓦礫の山となっている町を見た鬩は驚きのあまり、これは…の後の言葉を口に出す事が出来ずにいた。そんな鬩の前に野乃はなが現れる。

「野乃はな!大丈夫?怪我はない!?!」

鬩がそう言いながら近づくと、野乃はなはいきなり鬩の胸ぐらを掴み、投げ飛ばす。

「野乃はな、どうしたの？」

「…どうもしてないよ、私はいつもの野乃はなだよ」

「だったら一緒に上空にいる敵を倒そう…！」

「あれは敵じゃない…敵は貴方達だ」

野乃はなは鬨にそう言った後、無言のままプリハートを取り出してミライクリスタルをプリハート中央上部に挿し、プリハートをハート型にして中央下部のボタンを押して変身する。

キュアエールに変身した野乃はなは凄いい勢いで鬨に殴りかかる。身の危険を感じた鬨と近くにいた仲間達は変身アイテムを取り出し、変身する。

【プリキュアタイム！】

〈キュア・クロック!!〉

キュアクロックに変身した鬨はジウモードのジカンギレードを左手に持ち、何発も光弾を放ちながらキュアエールとの距離を詰めていく。十分に距離を詰めた後、ジカンギレードをジウモードからケンモードに変形し、鬨がキュアエールに斬りかかろうとしたその時、7体のアナザープリキュアがキュアエールの前に現れ、私の斬撃を防いだ。

「アナザープリキュアが7体も!?!」

アナザープリキュア達は鬨を吹き飛ばし、キュアエールと共に向かってきた。鬨は自

分に向かつてきたキュアエールと7体のアナザープリキュアの攻撃を受け、変身が解けてしまう。

「ぐっ…キュアエールなんでこんな事を…!!」

「僕が操ってるからさ」

鬘がそう言うと、誰かが倒れている鬘の前に現れ、鬘の疑問に答える。鬘の前に現れた人物、それはスーパertimeジャッカーのキースだった。

「あつ、あなたは？」

「僕はスーパertimeジャッカーのキース。プリキュアを消して自分達の世界を再建する為にここに来た」

「他のプリキュア達をどうしたの!？」

「初代とアナザープリキュアにしているプリキュア、そして取り逃がした魔法つかいプリキュアの2人とキラキラプリキュアアラモードの5人以外は僕が消した」

「なんて事を…!」

「プリキュアが全滅するのも時間の問題、せいぜい足掻くといい…」

キースは鬘にそう言い残してどこかへ去っていつてしまった。キースが去った後、怪物と戦っているルークが鬘の元に来て鬘に言う。

「鬘は奴が取り逃がしたプリキュアを連れてくるんだ!」

「分かった！」

ルークにそう言われた麩はタイムマジンでまず、魔法つかいプリキュアの2人のいる2016年へ向かうのだった…

## 第3話 切れてしまった3人の想い 2016

2016年…魔法界

「はあ…はあ…はーちゃん、怪我はないかしら？」

「…私は大丈夫、だけどもみらいが…」

「みらいを助ける方法が見つかるまでここに隠れるわよ！」

キースから逃げる為に魔法界へ来ている十六夜リコと花海ことはあまり目立たない場所に身を隠し、朝日奈みらいを助ける方法を考えていた。

一方、2016年の魔法界に着いた鰐は十六夜リコと花海ことはの名を呼ぶが鰐のいる場所に2人はいない為、返答はない。

「十六夜リコ、花海ことは！どこにいるのー？」

「へえーあなたも2人を探してるんだ…」

「朝日奈みらい!？」

2人を探す鰐の前に突如、朝日奈みらいが現れた。魔法つかいプリキュアは2人揃わなければプリキュアになれないはずなのに、朝日奈みらいは一人でキュアミラクルへ変身する。

「十六夜リコがないのに変身した!？」

「朝日奈みらいが変身出来たのは僕がプリキュアの力を持つてるからさ」

朝日奈みらいがキュアミラクルに変身した事に驚いているとまたスーパータイムジャッカードのキースが現れた。キースはプリキュアの力を持つており、操っているプリキュアならどんな場所、どんな状況でも変身させる事が出来るらしい。

キュアミラクルは生身の鬨に勢いよく向かっていく。キュアエールの時と同様、”正義同士”の戦いは控えたかかった鬨だが、このままでは自分の身が危険だと感じて変身する。

「プリキュアタイム!」

〈キュア・クロック!!!〉

鬨はミラクルの蹴り避けながら攻撃する機会をうかがうが操られているミラクルには全く隙がなく、攻撃できなかつた。

「リンクル・ペリドット!!」

ミラクルはリンクルストーン・ペリドットをリンクルステッキに挿し、魔法を発動させる。葉の吹雪が鬨目がけて飛んでくる。鬨はそれを避けきれずくらってしまった、少し先の建物の壁まで吹き飛ばされた。

「これで終わりだ…」

ミラクルはそう言いながらルビースタイルへとフォームチェンジし、拳に炎を纏わせた後、鬘の方へ勢いよく向かっていく。

「みらい！やめなさい!!」

鬘が攻撃をくらうのを覚悟したその時、十六夜リコが私の前にやって来る。十六夜リコを見たミラクルは動きを止める。

「みらい！元に戻って！私の知ってる朝日奈みらいはこんな事しないわ!」

「うるさい…うるさい、うるさい、うるさい!!」

十六夜リコは洗脳されているミラクルにそう呼びかけるが、ミラクルはそれを聞かずに炎を纏った拳で十六夜リコに殴りかかる。鬘はこのままでは十六夜リコが危ないと思いい、タイムマジーンを呼び、十六夜リコと付近にいた花海ことはを乗せて2016年から去っていく。

「……り……こ……」

洗脳され、プリキュアを敵視しているはずのキュアミラクルは目から涙をポロポロと流しながらタイムマジーンでどこかへ行ってしまった十六夜リコにそう言う。

鬘はタイムマジーンの中で2人に魔法界で起きた出来事を詳しく教えてもらう事にした。

「魔法界で何があったの？朝日奈みらいは何故、あんな感じに？」

「…私達が箒で魔法界を飛んでいた時、キースっていう男がやって来て私達を襲ってきたの。私達は変身してキースに向かっていったけれどキースの圧倒的な力には勝てなくて…」

「変身が解けた私達は隠れられる場所に逃げたけどみらいが逃げ遅れてキースに捕まっちゃって…」

リコとこととはは顔を下に向け、悲しい表情を浮かべながら鬨にそう話した。鬨は2017年へと向かいながら、朝日奈みらいの洗脳を解くにはどうすればいいかを考えていた。

考えこんでいると、タイムマジーンはいつの間にか2017年のいちご坂に着いていた。タイムマジーンの中から凄惨な町並みを見た鬨は早くキラキラプリキュア☆アラモードの人達を助けに行かなければ！と思いつきながら目的地に向かってタイムマジーンを加速させていくのだった…



## 第4話 ”大好き”を無くした戦士2017

2017年：：いちご坂

鬨は2人が危険な目に遭わないよう2人をタイムマジーンの中へ残し、1人でキラキラプリキュア☆アラモードのメンバーの搜索をする。

キラキラパティスリーの基本的な設置場所である苺坂自然公園を搜索していると早速、キラキラパティスリーが見えてきた。中に入ると服がボロボロで身体のあちこちに傷を負っている5人がいた。

「有栖川ひまり！大丈夫？」

「：：あなたは？」

鬨は近くにいた有栖川ひまりの身体を揺すって起こす。有栖川ひまりは目をゆつくりと開け、負った傷に苦しみながらもその場に立ち上がる。

「鬨さん!?!何故ここに？」

「今、それを話している時間はない！早く皆を起こして！」

鬨と有栖川ひまりは1人ずつ身体を揺すっていき、皆を起こしていく。

「皆！早くタイムマジーンに乗り込んで！」

キラキラプリキュア☆アラモードのメンバー5人は負った傷の痛みと戦いながら、タイムマジーンに向かって少しずつ歩いていく。

「このロボットの中、狭すぎるわ…」

「狭いとか気にしてる場合じゃない！早く乗って！」

鬨は狭さを理由にタイムマジーンに乗りとうとしない琴爪ゆかりにそう言う。タイムマジーンに皆を乗せ終わりと、鬨がタイムマジーンに乗り込もうとしたその時、誰かがタイムマジーンに乗り込もうとした鬨の腕を掴み、キラキラパティスリーの壁まで吹っ飛ばす。

「ぐっ……」

「2020年には帰らせない……！」

「宇佐美いちか……まさか、あなたも!?!」

宇佐美いちかはニヤツと不気味な笑いを浮かべながらキュアホイップへと変身する。

変身した宇佐美いちかはキャンディロッドを使い、鬨に向けてクリームエネルギーを飛ばし、身体を拘束する。鬨が拘束されて動けない間にホイップは勢いよく鬨に向かっていき、鬨の腹部辺りを思いきり蹴り飛ばす。変身が解け、鬨はホイップの蹴りを受けた腹部を手で抑える。

「ぐっ……なんて強さだ……！」

「鬩ちゃん！逃げるよ！」

劍城あきらはそう言いながら傷の痛みにも苦しんでいる鬩を背負ってタイムマジーン  
の操縦席まで運ぶ。鬩は傷に耐えながらもタイムマジーンを操縦し、2020年へと  
戻っていくのだった…

鬩達が2020年へ戻っていった後、2017年に取り残された洗脳状態のホイップ  
はキュアミラクル同様、ポロポロと涙を流しながらこう言う。

「皆…あと…は…頼んだ…よ…！」

2020年へ向かっている途中、立神あおいとキラ星シエルはこの時代で何があった  
のかを鬩に話す。

「いちご坂に突然、歴代のプリキュアの敵とタイムジャッカーと名乗る男・キースが現れ  
たんだ」

「ここにいる私達5人は逃げ切れただけ、いちご坂だけ逃げ切れずキースに捕まって何か  
されてしまったの…」

タイムジャッカーの男・キースは野乃はな、宇佐美いちか、朝日奈みらいの3人を洗  
脳しているようだ。

2020年…時ノ眼町

出来事を話しているうちにタイムマジーンは2020年へ着いた。町には無数の怪物がいた。タイムマジーンを降りた後、腹部に傷を負っている鬘は剣城あきらの肩を借りながら町の中心部まで歩いていく。

町の中心部に行くと、そこには怪物と戦うルークがいた。鬘達はルークに加勢しようとするルークの近くまで行こうとしたが、奥の方で怪物に襲われている1人の男がいた。

鬘は腹部の傷に苦しみながらもライドウオッチを取り出してバックルの右側のスロットに挿し、バックルを一回転させて変身する。

【プリキュアタイム！】

へキュア・クロック!!!

変身した鬘はケンモードのジカンギレードを左手に持ちながら怪物に向かっていく。

「目立たない場所に逃げて！」

鬘はそう言い、男を安全な場所へ逃がす。鬘はジカンギレードで怪物を何回か斬った後、バックルに挿してある2つのライドウオッチの天面のスイッチを押し、バックルを一回転させて必殺技を発動させる。

【フィニッシュタイム！】

《タイムブ레이크！》

必殺技が決まり、怪物は爆発と共に消えていく。怪物が消えたのを見た男性は鬘に近

づき、鬩に何かを渡す。

「これは…」

「それはモフルンライドウォッチ！4年前（2016年）ある女の子に黄醒鬩って子に会ったら渡しておいてって言われて！」

「ありがとう！ちなみにあなたの名前は？」

「赤紙シヨン、ただの探偵さ…ってな感じで俺は先に失礼するぜ！また会おう！」

赤紙シヨンは自己紹介を終えた後、走ってどこかへ去っていった。鬩は赤紙シヨンから受け取ったライドウォッチをライドウォッチホルダーにセットし、魔法つかいプリキュアの2人とキラキラプリキュア☆アラモードの5人のいる場所へ戻る。7人の元へ戻るとそこには洗脳されている野乃はな、宇佐美いちか、朝日奈みらいの3人がいた。3人はプリキュアに変身し、仲間へ襲いかかるのだった…

## 第5話 Memories (メモリーズ) 2020

鬘は攻撃を受けてしまうギリギリの所で皆を逃がし、キュアエール、キュアホイップ、キュアミラクルの3人と戦い始める。

最初は3人の攻撃を上手く避けながら3人に攻撃出来ていたが、体力の消耗と共に段々と攻撃を避けられなくなってきた。

「ぐっ…まずい、避けられない…!」

体力を消耗し、攻撃を避けられなくなった鬘は3人の攻撃を受け、近辺にある建物壁まで吹き飛ばされる。3人に囲まれ、鬘が負けを覚悟したその時、十六夜リコがキュアミラクルの背中に抱きつき、キュアミラクルの動きを止める。そして洗脳されているキュアミラクルにこう言う。

「ミラクル! いや、みらい!! もうやめて!」

「…うるさい」

「あなたが皆を思い出すまで私はあなたを離さない!」

「くどい…!!」

「きゃあ!!」

十六夜リコはキュアミラクルに何度も何度もそう呼びかけるがキュアミラクルは十六夜リコに冷たい口調でうるさいと返答した。それでも十六夜リコが諦めずキュアミラクルに抱きついていると、キュアミラクルはくどい……!と言いながら自分に抱きついている十六夜リコを数メートル先へ投げ飛ばす。

「十六夜リコ!?!」

「大丈夫! みらいは私が取り戻してみせるわ!!」

護はキュアミラクルに投げ飛ばされた十六夜リコの元へ行こうとしたが十六夜リコが大丈夫! と言うので行くのをやめた。十六夜リコを投げ飛ばしたキュアミラクルは自分の胸のあたりを押さえて何かに苦しんでいた。瞳からは小粒の涙が流れている。

「みらい!!」

十六夜リコはそう言いながら胸のあたりを押さえて何かに苦しんでいるキュアミラクルを抱きしめた。その瞬間、眩い光がキュアミラクルの全身を包み込む。包み込む眩い光と共にキュアミラクルの変身が解けた。

「リコ、ありがとう……!」

みらいはそう言い、気を失ってしまった。ミラクルの手にはミラクル ルビースタイルライドウォッチとマジカル ルビースタイルライドウォッチが握られていた。

「ライドウォッチ!?!」

「…きつと、私のみらいを取り戻したいという気持ちとみらいの元の自分に戻りたいという気持ちがこのアイテムに呼応したのね…」

「そんな事があるのか…」

鬘は今までライドウオッチはアナザープリキュアを倒し、プリキュア達がプリキュアである記憶を思い出したら作られる物だと思っていたので今回のライドウオッチの作られ方には驚いていた。そんな驚いている鬘の元に十六夜リコが歩み寄ってくる。

「これ、あなた達にあげるわ」

十六夜リコはそう言いながら鬘の手の平の上にライドウオッチを置いた。2つのライドウオッチを受け取った鬘はミラクルルビースタイルライドウオッチをバツクルの左側のスロットに挿し、バツクルを一回転させてフォームチェンジする。

【プリキュアタイム！】

〈キュア・クロック!!!〉

【アーマータイム！】

《ジュエリーレ！》

〔ルビースターイル!!〕

ミラクルルビースタイルアーマータにフォームチェンジした鬘の髪型はツインテールになり、全身にルビーの情熱の炎を纏っている為、両手から炎の玉が出せるようになって



た。鬘はキュアエールとキュアホイップに向かっていく。一方のキラキラプリキュア☆アラモードのキラ星シエルは敵がない事を確認し、近くにあるスイーツショップへ入っていった。

鬘は拳に纏った炎でキュアホイップが飛ばしてきたクリームエネルギーを溶かす。そして襲いかかってきたキュアエールの腹部を殴った。だが、キュアエールはすぐに態勢を立て直し、鬘に向かっていく。自分に向かってきているキュアエールに集中していた鬘はキュアホイップのクリームエネルギーを避けることが出来なかつた。鬘がクリームエネルギーを受けそうになったその時、うさぎシヨートケーキを持っているキラ星シエルが店の中から出てきてキュアホイップの前へ置いた。

「いちかー！思い出して！今のあなたは皆の”だいすき”を守っていない、壊してるだけよー！」

「…黙れ」

「黙らないわ！これを食べてみなさい！」

キラ星シエルはそう言いながら洗脳されているキュアホイップの近くまで行き、キュアホイップにうさぎシヨートケーキを食べさせた。すると、キュアホイップの虚ろな瞳が元の瞳へと戻っていく。そして元に戻った瞳からは小粒の涙がポロポロと流れ落ちている。

「あ、あれ…？私、何してたんだろう…」

「元に戻ったようね！おかえり、いちか！」

洗脳が解けたキュアアホイップは変身を解き、キラ星シエルと共にキラキラ☆プリキュアアラモードの皆の元へ戻っていった。

その頃、鬩はキュアアールと戦っていた。キュアアールの一撃は重く、防ぐ事を一切せずにまともに食らえば大ダメージを負ってしまうだろう。

「野乃はな、あなたは今までに何人もの人達を抱きしめて来た。だが、自分が誰かを抱きしめる立場故に自分が悪になった時に自分を抱きしめてくれる人が自分達の仲間いない。その仲間がいらないじゃ誰にも抱きしめてもらえない…」

「…それがどうしたアア!!」

「だから、私が封印されてる他のメンバーの代わりにあなたを抱きしめる!」

鬩はそう言いながらジカンギレードをその場に捨ててキュアアールに向かっていく。鬩が向かっていくのと共にキュアアールも自分に向かってくる鬩を攻撃する為に鬩に向かっていく。

鬩はキュアアールの拳を間一髪のところまで避けてからキュアアールをぎゅつと抱きしめた。

キュアアールは自分に抱きついてくる鬩の腕を離そうと抵抗するが鬩は抱きしめて

いる腕を離そうとしなかった。抱きしめているうちにキュアエールは抵抗しなくなり、瞳も元の瞳に戻っていった。

「あれ、鬘ちゃん！私、何やってたんだろう？」

「あなた、タイムジャッカーに洗脳されてたの」

「そうだったんだ…ごめんね、鬘ちゃん！」

「大丈夫」

洗脳が解けたキュアエールはペコペコと何回も鬘に頭を下げ謝った。鬘はキュアエールに大丈夫と返答した。

鬘とキュアエールが話しているとアナザープリキュア4体が鬘達の近くに来た。その4体は容姿がハピネスチャージプリキュアに似ていた。

「アナザープリキュア…！」

鬘はそう言いながら身構えたが次の瞬間、何処からかキュアゼロとハピネスチャージプリキュアが現れた。

「キュアゼロにハピネスチャージプリキュア!？」

「キュアクロック。お前の世界には同じ力が共存できないとか言う面倒くさいルールがあるからこの私がわざわざ別世界からアナザープリキュア4体に対抗できるプリキュア連れてやったぞ」

鬨は突然の出来事に驚き、今いる場所から一步も動けていなかった。その様子を見たキュアゼロは右肩をポンツと軽く叩いてから鬨にこう言う。

「魔王、力を貸せ」

「うん、分かった！」

キュアゼロに力を貸せと言われた鬨はうん、分かった！とキュアゼロに返した。鬨の返事を聞いたキュアゼロはハピネスチャージプリキュアに続いてアナザープリキュア4体に向かっていったのだった…

## 第6話 ARMOR TIME (アーマー タイム) 20

20

鬘がアナザーハピネスチャージプリキュアに向かっていこうとしたその時、胸元に ECH<sup>エ</sup>Oと書かれたアナザープリキュアが鬘の前に現れる。

「エコー!!」

「奴はキュアエコーの力を持つアナザープリキュア!!」

「キュアエコーのウオッチないよ? どうすればいいの?」

ルークは鬘にアナザープリキュアの名を教える。そしてアナザーエコーを倒す為のキュアエコーライドウオッチを持っていない鬘がどうすればいいのか? をルークに聞くが、それについてはルークも分からないようだ。鬘とルークが話している間にアナザーエコーが鬘とルークに向かってきていた。隙を突かれた鬘とルークがアナザーエコーの攻撃を受けるのを覚悟したその時、鬘達プリキュアと同じように装甲を身に纏っている1人の男性が現れた。

「ブレイドストライク!!」

男性はそう言葉を発しながら武器の刀身に花のエネルギーを纏わせ、アナザーエコー

に向かつて技を放った。

「大丈夫か？」

「あなたは？」

「俺か？俺は御剣 明！そして今はブレイドナイトだ！」

男性は変身前の姿を御剣 明、変身後の姿をブレイドナイトと名乗った。御剣 明は鬘達に名を教えた後、再びアナザーエコーへと向かっていった。そんな御剣 明の腰の辺りにライドウオッチみたいなのが吊り下がっていた。

「あれは!!」

「間違いない、エコーライドウオッチだ！」

鬘とルークは目を凝らし御剣 明の腰の辺りをじーっと見る。2人の目には白と黄緑の2色で彩られたライドウオッチが映る。

「ねえ！そのライドウオッチ貸してくれないかな？」

「分かった！」

鬘はアナザーエコーと戦っている御剣明にそう言う。御剣 明は分かった！と言いつつ腰の辺りにあるエコーライドウオッチを取り外し、鬘に投げて渡す。

そして御剣 明からエコーライドウオッチを貰った鬘がエコーライドウオッチを使うおうとしたその時、私の前にアナザーモフルンがやってきた。

「アナザーモフルン……ルーク、私はアナザーモフルンを相手するからルークは御剣明さんに加勢して！」

鬨はそう言いながらルークにエコーライドウオッチを渡す。その後、モフルンライドウオッチをバックルの左側のスロットに挿し、バックルを一回転させてフォームチェンジする。

「プリキュアタイム！」

へキュア・クロック!!!」

「アーマータイム！」

《ジュエリーレ!》

「モフルン!!」

モフルンアーマーにフォームチェンジした鬨はアナザーモフルンに向かっていく。一方のルークはエコーアーマーへフォームチェンジし、御剣 明に加勢する。

鬨はケンモードのジカンギレードでアナザーモフルンを何回か斬っていく。その後、肩のアーマーに付いているダイヤ、ルビー、サファイア、トパーズの宝石をアナザーモフルンに向かって飛ばした。

鬨の攻撃を受けたアナザーモフルンは怯んだ。鬨はアナザーモフルンが怯んでいる間に二つのライドウオッチの天面のスイッチを押して必殺技を発動させる。

【フィニッシュタイム！】

【モフルン!!!】

〈エターナル・タイムブ레이크！〉

鬨はダイヤの宝石と共にその場に高く飛び上がり、ダイヤの宝石を足に纏ってからアナザーモフルンに向かって急降下していく。

必殺技を受けたアナザーモフルンは爆発と共に消え去っていった。アナザーエコーと戦っている2人もアナザーエコーを倒した様子。後はアナザーハピネスチャージプリキュアとアナザーペコリンだけだが、ここで危機感を感じたキースは新たなアナザープリキュアを呼んだ。

「いでよ！遙か未来からの刺客！アナザーチノガミ！」

キースがそう言うと共に上空から新たなアナザープリキュアが現れた。これを見た門矢零は戦うのをやめて鬨にこう言う。

「アイツは『キュアゼロ』という物語の世界にしか現れないパッチワークプリキュアのキュアソレイユの力を持っている。私の次元の壁を使って芽吹町という所に行け。そして力を手に入れて奴を倒せ！」

門矢零はそう言いながら次元の壁を作り、鬨を壁の向こうへ押した。門矢零が作った



次元の壁をくぐった私は本来、2320年に生まれるはずのパッチワークプリキュアの  
リイマジ世界へ辿り着くのだった…

t o b e c o n t i n u e d . . .